



子どもの笑顔、未来のために、

きのと小 **燦** だより

子どもの方を向き、みんなで力を合わせて育てましょう

平成30年 4月27日

学校だより 第2号

胎内市立きのと小学校

<http://tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es>



引っ張るのではなく 後押ししていく

校長 佐藤新一

6年生の大きな手に引かれ、5年生のつくる花のアーチをくぐって入場するちょっと緊張気味の1年生。24日は1年生を迎える会でした。素敵な歌を交えた2年生の初めのあいさつで会は始まりました。児童会の歌、1年生の元気のいいあいさつと続き、恒例の『人間知恵の輪』ではもうみんな笑顔になっていました。どの学年も成功させようという気持ちが表れ、温かく迎えられた1年生。いいスタートが切れました。

教えて、できることを増やす

登校班長としての高学年が、後ろの1・2年生を気にして登校してくれる様子を見ています。玄関前で並び、「今日も一日元気に頑張りましょう」の声をかけて登校班を解く様子を見ています。初めはしどろもどろだったり声が小さかったりしていましたが、様になってきました。自覚が伴ってきたのだと思います。これらは教えられないとイメージが湧かずにできないものです。教えられ、考え、やれるようになるのです。

休憩時間、子どもたちが教務室に入ってくる様子を見ていました。ガラガラ、「失礼します。○年の□です。△先生に用があってきました。」ほとんどの子がそう言って入ってきます。「かばんを下ろしてきてください。」と言われ、やり直す子もいます。1年生が入ってきました。入り方は教えられたのですが、その脇には担任がいます。詰まった時、「こう言うんだよ」と伝えながら、言わせていました。そして「できたねー。」と担任も周りも褒めていました。こんなふうに教務室への入り方を身につけています。

できることを増やしています。時になぜ、そうするのかを考えさせながら。



一人できるように後押しする

この1年も、『できることを増やす』を目標に子どもたちも教師もいろいろなことに取り組んでいきます。それは自信となり、さらに挑戦する意欲にもつながっていきます。

元塾の講師でタレントのH先生は「教育は教え育てる」ものではなく「教え育つ」ものと言っています。教育の役割を考えた時、その子に寄り添い知識や技能を教えることも必要ですが、方向を示して導いてやるのが大切です。子どものやろうとする先々を大人がやることは、自分で行動したり考えたりする機会を奪っていることとなります。大人や教師の都合で価値を押し付けるのではなく、かといって子どもたち自身の価値判断にすべて委ねるのでもなく、教えるべきことは教え、あとは考えさせ自分で判断し行わせること。引っ張っていくのではなく、後押しをしていくことが教育では大切になってきます。

「なぜ、そうなるのだろうか」「どうしたらいいかな」など、問いを投げかけ子どもたちに考えさせることで、自発的に育つようにもっていきたいものです。分からないできないでいると、すぐ、手を出し口を挟みたくなりますが、「じっと見守る」我慢が後押しをする私たち大人に求められているように感じます。



学校が始まり一カ月が経とうとしています。元気に活動している子どもたちです。自己主張をし始める小学校期、トラブルがあっても当然です。その時にどうかかわっていったらいいのかを教え考えさせていきます。これからも、楽しい学校であるために子ども同士の優しい関わりをつくっていきます。よろしくお願いします。